

審議会等の会議結果報告書

【担当課】子ども課

会議の名称	第1回茅野市子ども・家庭応援会議		
開催日時	令和5年4月24日(月) 午後7時00分～午後8時25分		
開催場所	茅野市役所 703・704会議室		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章委員、両角薫委員、戸川榮司委員、岩下ふみ子委員、竹内ひかり委員、小坂秀王委員、北澤いずみ委員、茅野市保育所保護者会連合会委員(代理)、茅野市PTA連合会委員(代理)、石井聖文委員(代理)、山口圭子委員、宮原渉委員(代理)、小口直喜委員、勅使川原はすみ委員、北澤孝郎委員、前島敦子委員</p> <p>【市側出席】 山田教育長、五味子ども部長、平澤健康福祉部長、守屋地域福祉課長、小穴範子健康づくり推進課長、阿部子ども課長、笹岡幼児教育課長、渡辺学校教育課長、北田子ども館長、小平子ども係長、飯島子ども係子ども育成担当、高橋子ども係主査、矢崎子ども係主事</p>		
欠席者(委員のみ)	大作公明委員、渡辺修委員、原田正樹委員、味澤広明委員		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍観者の数 0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
副会長	<p>司会進行 1 開会</p>		
教育長	<p>2 委員委嘱(教育長による委嘱書授与)</p> <p>3 教育長あいさつ 令和5年度第1回茅野市子ども・家庭応援会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。 ただいま委員の委嘱を行いました。今年度新たに委員になられた皆様方、どうぞよろしく願いいたします。また昨年度から引き続きの方、どうかよろしく願いいたします。 本会は、「茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例」に基づき、地域ぐるみで子育て、子育てを応援・支援していくための計画、「子ども・家庭応援計画(どんぐりプラン)」の進行管理を行うものであります。 本日は、どんぐりプランの見直しについてです。 中間見直しになりますが、そのための見直し専門委員会の設置について、皆様にお諮りするものであります。 どうかそれぞれのお立場から、子どもたちを取り巻く子育て環境や課題、子どもを支えるための活動等、様々なご意見を、お出しいただく中で、私たち子育て施策の充実に努めて参りたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>4 自己紹介 委員、事務局の順に各自自己紹介</p> <p>5 茅野市子ども・家庭応援会議の役割について</p>		

事務局	事務局は、資料2に基づき、本会議の目的や条例上の定義、委員の役割等について説明した。
事務局	<p>6 会議事項</p> <p>(1) 審議会等の会議の公開の確認 事務局は、資料3に基づき、本日開催のこども・家庭応援会議について、公開の対象となる旨を説明した。</p> <p>会議の公開について委員の承認を諮ったところ、全員異議なく承認した。</p>
こども課長	<p>(2) 第3次こども・家庭応援計画の中間見直しについて 資料4-1に基づき、中間見直しの概要、見直し専門委員会の設置、具体的な取組方法及び今後のスケジュールについて説明した。 資料4-2に基づき、前回の中間見直しについて例示した。</p>
会長	<p>質問事項あるか確認 意見・質問なし</p>
こども課長	<p>(3) 中間見直し専門委員会の設置について 事務局から参考として、前回の見直し専門委員会の人数・所属団体(どんぐりネットワーク茅野、福祉21、読りーむinちの、茅野市食育推進計画推進委員会、茅野市行政アドバイザー、子ども会育成会連絡協議会、保育所保護者会連合会、市PTA連合会の計8名)について説明し、選出を依頼した。</p>
会長	立候補を募る
	立候補なしのため、事務局から腹案名簿を配布
こども課長	事務局から見直し専門委員の腹案(構成員)を提示
会長	異議なしのため、これでいきたい。どうぞよろしく願います。
会長	<p>7 その他</p> <p>せっかく集まったので、どんぐりプラン推進のための意見交換・情報共有ということで最近の関心事、懸念事項等を各団体から名簿順でお願いしたい。 どんぐりネットワーク茅野 から 私たちはどんぐりプランを推進のため、部会活動と定期的な幹事会活動というところで情報共有しています。 特に今年、去年ぐらいから、様々な子育て等の活動人たちが集まってきて、そこで起きている問題を情報共有や連携のために2、3ヶ月に1度集まり、情報共有をしています。 それから、どんぐりサロンという形で、会場とオンラインを併用して、月1回開催しています。先月は、富士見町の総合計画の子育てに関する部分で市民の声を反映させるために活動をしていた方をゲストに迎えてアンケート調査の手法などの話を聞きました。そこでどのようにすれば市民の声を総合計画へ反映できるか、うまくつながった事例を勉強しました。オンラインで意見を集めていて、非常に積極的なフリーな意見が集まり、それを分類して、整理されてレポートを作ることが非常に参考になると思いました。</p>

<p>副会長</p>	<p>このように、毎月、いろんな外部で活動している方を招いて、子育ての支援の情報共有をしているので、会場あるいはオンラインで参加いただければと思います。</p> <p>読りーむinちの から</p> <p>読書の森読りーむinちのは、読み聞かせをしている団体と思われがちだが、行政と一緒に公民協働で子どもたちの心を育てるということで読書活動を推進している団体です。</p> <p>5月に、小学校一年生に入学されたお子さんに、セカンドブックということで、本を1冊プレゼントする活動があります。今年は以前と比べて半分ぐらいに児童の数も減っていますがプレゼントします。</p> <p>セカンドブックと名がついているが、生まれたときに1冊、4ヶ月健診のときに1冊、保育園年中で環境絵本として1冊、1年生に上がるときの計4冊をプレゼントしています。行政の財政も厳しいかと思いますが、こども家庭の貧困ということもあるので、子どもたちの本を読む機会を失わせたくないと思っています。</p> <p>また一年生のお子さん見かけたら、セカンドブックをもらったかなということ思い出していただけると嬉しいです。</p>
<p>委員</p>	<p>福祉21茅野 から</p> <p>福祉21は、色々なワーキンググループを作っていますが、コロナの影響で、非常に停滞していました。その中でも、ずっと続いていたのが移動支援の問題です。通学はいいのですが、お年寄り、社会的弱者の方が移動手段がなかなかないというところに、今のらぎあができて、かなり良いシステムだと思います。停留所も家の近くに停まり、足の悪い方などに非常に良いので、移動支援についてはのらぎあを中心に進めています。</p> <p>もう一つは、福祉避難所です。災害があったときに、普通の人と一緒にいられないような方をどのように、福祉避難所に移動させるかが問題として続いています。</p> <p>それと、ようやくほろ酔い座談会が再開始めて、あちこちでやられています。これは、中央病院の先生方が主に来て、健康の話や、福祉21の話をします。やはりお医者さんという社会的地位や非常に信用のある方が、話をすると浸透度が違ううえ、人を集めるのに有効で、続けています。</p> <p>ただワーキンググループが停滞したということで、5月の半ばに大会をやって、継続のものは別として、新たにワーキンググループを作って、リスタートしようという動きになっています。</p> <p>また、このこども・家庭応援会議について思うところがあります。私は県外出身で、子どものころはふるさとについて思い入れはありませんでしたが、進学や就職でふるさとから出たときに、何十年もたってからふるさとの良さを思い返します。住んでいるとわからない良さ。</p> <p>ですから私は子どもを育てるときに、茅野市のいいところ、例えば、御柱祭でも自然でも、自分の町を思い出して、自慢できる。できれば帰ってきたいと思うようななればいなど。子どもは、生きるのに必死だと思うので、大人がこういういいところがあるということ、言えるような。大人が言わないと、子どももなかなか理解できない。特に、よそから来た人は茅野の良さが分かるので、住んでいる人は、ぜひそういう人たちの意見を聞いて、茅野市の良さを子どもたちにアピールして、心に残るような故郷にしていくといいなと思います。</p> <p>食生活改善推進協議会 から</p>
<p>委員</p>	<p>食生活改善推進協議会 から</p>

委員	<p>食生活改善推進協議会、略して食改という名前で活動しております。 「私たちの健康は私たちの手で」というのを合言葉に、毎月、自分たちの健康ばかりでなく、家族や地域の方の健康を考えながら、健康についての勉強と、調理実習をしています。</p> <p>最終目的はそれを地域の人たちに広めるということなのですが、最近ではコロナの関係で、そこまで行けなかったことが残念でした。</p> <p>それから乳児健診時の離乳食を作るお手伝いもしています。夏休みは親子料理教室というのがあり、小学生のお母さんや、お子さんと一緒に料理を作って、それを食べるという活動もしております。</p> <p>スポーツ協会 から</p> <p>こちらの会議内容とは外れてしまうかもしれませんが、子どもというキーワードと、自分の所属する茅野市スポーツ協会という中で、先日も理事会の中で出た話題です。主に中学校だと思うのですが、部活動の地域移行という話題です。校長先生おられるので、その辺はよくご存知であるかと思うのですが。現在先生方が部活動の指導やサポートをされているのですが、それを一般のスポーツ協会や団体に所属する一般の人がサポートするという流れに変化していくという話題が出ており、これがどのようになっていくかが、今の関心事です。</p>
会長	<p>スポーツ協会としてその流れに協力することがあるのですか。</p>
委員	<p>競技ごとだと思います。関連性のあるスポーツ協会に所属している団体の人たちに、フォローの依頼や協力などの話があるのではないかというようです。</p>
会長	<p>学校から相談があったら、そういった該当する人や団体を紹介することが、あり得るんですね。子どもたちにとっては大きな変化ですね。先生から外へ。</p>
委員	<p>主任児童委員 から</p> <p>主任児童委員です。私は2期目になりますが1期目にはコロナで何もできない状況でしたが、この3月ぐらいから急に、卒園式、卒業式、入学式、入園式に参加しました。それから慣らし保育のお手伝いということで、保育園の年少さんが入った最初の1週間2週間ぐらいのパパママと泣いて大変な状況の中で民生児童委員がお手伝いに行きました。</p> <p>私もエプロンをして、三つの保育園に行きました。感想の一つは、男親の方の送迎が私の子育ての時代に比べると増えている感じがしました。男性がいろいろ育児に関わるということが身の回りでも、広がっていると感じました。</p> <p>二つ目は安全管理。これが私の子育て時代よりうんと強まっている。これは社会の要請、保護者の要請なのでしょうが、特にコロナはこの安全配慮や管理が強まっている。先生たちの労力がかなりそちらに割かれている。ですから、このどんぐりプランの、たくましく・やさしい・夢のある子どもを育むためのエネルギーが大分それに削がれているような気がすると感じました。</p>
委員	<p>諏訪人権擁護委員協議会茅野市地区部会 から</p> <p>人権擁護委員です。私たちの活動は人権の花の運動や、保育園での啓発、人権教室の開催、街頭啓発、茅野市では全小学校への人権の読み聞かせを行っています。中学生には人権作文への協力をいただいたりして、私たち自身も研修をしながら、相談に対応していくことをしていますが啓発活動が主にな</p>

	<p>ります。</p> <p>子どもの心の中に人権というものをどう育てていけばいいのか、また人権とは誰でも持っていて身近で大切なものであるということ意識させたり、尊敬し幸せや思いやりを大切にしようということ、どのように子どもたちの心の中に少しずつ種をまいていこうかということ。啓発が主になりますが、分担を決めながら全小学校に、紙芝居や読み聞かせをしています。</p> <p>子どもたちが、本当に真剣に聞いてくれたり、感想等を手を挙げて言ってくれたりというように、子どもたちの中に少しずつでも自分自身の自己肯定感を含めて人権擁護の気持ちや心が育てばいいなという活動です。</p> <p>委員さんからは、どの小学校に行ってもよく話を聞いてくれ、そのことについて積極的に意見をしてくれるという話を聞いています。</p> <p>私たちの課題としては、中学校での人権教室を、他市では行っていて、自分たちが書くだけでなく、ディスカッションのようなことができるような取り組みを茅野市でもしていきたいと思っています。</p>
会長	<p>まだ今は中学校ではやっていないのですか。</p>
委員	<p>他市のようなものはやっていないので、今年は長峰中学校での開催を計画しています。</p>
会長	<p>その活動で、何かこう時代というか、何か変わってきているよう部分がありますか。</p>
委員	<p>中学生の作文を見ていると、ウクライナの子どもたちがどんなふうに住んでいるのか、自分にとって戦争とはどういうことなのだろうか。差別に関してもアメリカの差別や、自分の外国生活や、日本での差別やいじめを自分に置き換えてという作文が多いです。そして、こうあるべきじゃないか、自分はこう考えているという作文が大変多くて、子どもたちが世界に目を向けて自分なりの意見を表現してきている作文が大変多いのが特徴であると思っています。</p>
委員	<p>茅野市保護者会連合会 から</p> <p>最近の関心事というわけではないのですが、お金の使い方を連合会の中で話すことができました。</p> <p>保護者会連合会の仕事の一つに各保育園から出る要望を市へ上げていくというものがあります。前年の活動を見ても、その要望の8割ほどが予算の関係で、却下というふうに見受けられました。ですが、声を上げなくなってしまっちはいけないということで、変わらなくても、声を上げていこうという話をしています。いろいろな保護者から、そこに割くお金は違うのではないかという意見が出ているので、地域をつくる一保護者として、子どもたちのために、もう少しお金(市の予算)の使い方を皆で話し合っていければいいなと思っています。</p>
委員	<p>茅野市PTA連合会 から</p> <p>先週、第1回理事会を各学校のPTA会長さんに集まっていただいて開催しました。内容としては、PTA活動は、コロナ前には結構盛んに行っていたようでして、それが負担になるという話が結構多いので、無理にコロナ前に、活動を戻すのではなくて、省けるところは省いていけたらいいなという話をしました。来年、再来年度にPTA役員になる人の負担にならないように、努力していきたいと思っています。</p>

<p>会長</p>	<p>これからの活動は、5月に諏訪地区のPTA指導研修会というものを行いまして、佐久市野沢中学校の元校長先生という方をお呼びして講習会を開きたいと思っております。</p> <p>何をすべきかということはどうも変わってもいいかなという中で、試行錯誤ですよね。やはり親と先生と一緒に議論できる場であるということが重要な。仕事として作業するのもあるけども、考える親たちと先生の間というのは価値がありますよね。期待しています。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野警察署 から 茅野警察署の方から二点をお話します。</p> <p>一つは主に小中学生に対するソフト面のお話です。我々のサポートとしては、一部の学校ですが、毎年小学6年生に我が家のセーフティーリーダーの委嘱を行っています。学校、また家庭内において、小学6年生がみずから法律の規範意識を持つ。住宅や自転車の鍵の施錠関係でもそうですし、また学校の中では、他の下級生の模範となるような意識を植え付けさせるように委嘱という形で行っています。また今流行りの振り込め詐欺の被害防止のために、同居の高齢者に防犯グッズを作って渡して、意識づけをしています。また、湖東小では、ビューティフルビーナス活動として、警察官や少年警察ボランティア協会の皆さんと一緒に花植えをして、地域を愛するという意識付けということも行っています。また小中学校の皆さんに防犯ポスターを書いてもらうという形で警察のソフトな形でのサポート活動をしています。</p> <p>二つ目は、ここ数年刑法犯犯罪の認知件数が横ばいもしくは減少傾向にあったのですが、コロナが大分落ち着いてきたというのが要因の一つかもしれませんが、この3月末から増加に転じてきていることが、注視しているところです。これはすぐに子どもたち、また家庭に何か直接影響があるかはわかりませんが、場合によっては茅野市と情報共有しているところです。児童虐待や親のDVを子どもが知って心理的な虐待が増加傾向に転じる可能性がありますので、その辺を引き続き注視しながら、対応をとりたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>諏訪児童相談所 から 平成28年度に児童福祉法が改正になり、子どもが権利の主体であることと、家庭養育優先の原則が明記されました。いわゆる地域の子どもを地域で育てる新体制づくりということで、それについてはこのどんぐりプランはまさに理にかなっているものなので、この見直しを期待して様子を見させていただきたいと思っています。</p> <p>児童相談所は、サービスというものではありませんので、いわゆる一時保護や入所という、行政処分で家庭に介入する手だけではありません。そういった司法介入は今非常に問われているところです。具体的には、子どもや親の権利を侵害する行為になるので、同意が得られない場合については、司法にその適正な判断を委ねるということです。特に一時保護については、同意が得られない保護については、家庭裁判所に児童相談所が申し立てをして、この保護についての適正を判断してもらうこととなります。これから分離については、難しい状況が出てくるのかなということで、動向を見ているところです。</p> <p>また一時保護や入所については受け入れ先の確保をしなければならないが、家庭養育優先の原則や、児童人口が減っているということもあって、児童養護施設等で定員を減らし出していて、児童養護施設、一時保護所の受け入れが全県で余裕がない状況です。そのため、分離をする必要がある子どもに</p>

	<p>についても、すぐに保護先や入所先の確保ができないということになるので、そうならないように、早めに予防を講じるという意味でも、家庭の支援を地域で行うことは児童相談所としても、それから子どもと家庭の安心安全のためにも非常に有効な手だてだと思っています。</p> <p>児童相談所は、強制的な介入しかできないので、悪者にはなりません。そうなる前に、地域で子どもたちが生活できるような体制を作っていただきたいというのが児童相談所の願いです。</p>
会長	<p>その受け皿が縮小しているというのは子どもの人口の減少速度よりも、縮小の方が早いのですか。</p>
委員	<p>乳児院に入所するお子さんは家庭で養育するとリスクが高まってしまうこともあるので、減少速度は非常に緩やかです。ショートステイなど需要があるものは割と緩やかです。</p>
会長	<p>単純に削減策ではなくて、社会的な事情に合わせてということですね。</p>
委員	<p>長野県子ども・若者育成支援推進本部諏訪地方部 から 県としては、信州子どもカフェ、子ども・若者サポートネット、フードドライブ等、子どもに対する支援を行っております。</p> <p>先ほど作文の話が出ましたが、9月に少年の主張長野県大会ということで、全県の中学生に募集をして作文書いてもらいます。また中学校にご協力いただければと思います。</p>
委員	<p>茅野高校 から 皆様のおかげをもちまして、昨年80周年を迎えることができました。今年二つの動きがあるので紹介させていただきます。</p> <p>1点目は、2年生がデュアル実習という、従来型のインターンシップではなくて、金曜日に丸々1日、年間を通して21日間、企業へ実習に出ます。お客様ではなくて社員の一員として、働くことによって、仕事や働くこと、会社の組織、ひいては社会について学ばせていただこうと思います。子育ての最後の段階に、社会で自立するという部分を、学校だけでなく地域の皆様にも、関わっていただきたいという思いもありますし、また、なかなか高校生と接する機会がないと思いますので、今どきの高校生、今どきの茅野高生というのも見ていただく一つの機会になるかと思っています。諏訪地域のおよそ60社にお願いしているので、皆さんの職場にお世話になることもあるかと思っていますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>2点目ですが、今年の1月に、長野県の高等学校再編計画の第三次案が了承され、富士見高校と茅野高校が、仮の名前ですが茅野富士見新校という形で統合されることになりました。県の構想の中でも地域と関わっての、新しい教育を目指しております。この岳麓地域の県立高校ということで、今後のあり方について、皆さんからご意見を伺いながら、おおよそ、七、八年かけて、新校の開校を予定したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
委員	<p>教育委員 から 教育委員会は低所高所からいろんな発言をするところだと思っていただければと思います。</p> <p>最近感じていることは、コロナのせいもありますが、子どもたちの実体験の</p>

	<p>場が、減らされてきている。実体験をしないとたくましくやさしい夢のある子どもが育たないので、体と心で体験する場を減らさないでほしいと感じています。大人も、クールという言葉が恰好よくて、熱くなって物事をする人が悪くなっているという風潮がありますが、実は本当に熱い人間が必要だと思っています。</p> <p>今回のどんぐりプランも最初のころから時代がすっかり変わっています。地域にあるこども館も、その目的や使用内容、規約もすっかり変わってきているので、今回の計画の見直しの中で、しっかりそのことについて踏み込んでいただいて、もっと緩やかにみんなが使えるような方向に進めていただきたいと思っています。</p>
委員	<p>世の中が変わってしまったという議論になるのですが、先ほどのPTAとかでの負担というものもすごくなってきて。保育園の待機児童の問題にしても、結局時間が足りない世の中になってきた。働き方改革というのは的を射ているとは思いますが、原始時代のように生きるためだけに時間を使っているような。豊かに生きるためにテクノロジーが進化してきたのに、日常が生きるだけで精一杯、稼がないと生きていけない、そこが今、一番大きく変わった価値観かな。その中に夢を持たせることは難しい。頑張って知恵を出さないといけないというのを強く感じますね。</p>
委員	<p>茅野市校長会 から</p> <p>校長会としては本年度も各学校独自のよさを発揮しながら、たくましくやさしい夢のある子どもを育てていきたいと思っております。</p> <p>私が感じているのは、ここ3年ほど、新型コロナウイルスの影響で、学校教育活動に随分様々な制限がありました。ただ現在は、感染状況の小康状態ということで、ほぼ通常活動ができていると感じています。ただコロナ自体がなくなったわけではないので感染対策をしながら、かつてのようにはいかないと思いますが、いかに回復をしていくかということがそれぞれ課題になるかと思っています。どのように回復していくかは、各小中学校の今後の計画によって、それぞれの地域や学校の良さを生かしていくことになると思います。</p> <p>ちなみに北部中学校は、ここ3年間で学校と地域との関わりがほぼなくなってしまった状況で、これをどのように回復するかということを生徒会が中心になって、中学生が独自に自分たち考えて生徒と今奮闘しているところです。具体的には、公民館の皆さんのお力添えをいただきながら、学校と地域との連携、というよりはむしろこの学校の方から地域づくりにぜひ参画したいなど、何か活動に参加させていただけないかというスタンスで、働きかけを行い、新しい関係を構築していきたいというつもりでいます。</p>
委員	<p>茅野市園長会 から</p> <p>先ほどリスタートの話がありましたが、まさしく保育園も3年前からのリスタートというところです。職員も変わり、意見を出し合いながら、3年前に戻ることは難しいけれど、行事をしていく中で、地域との関わり、先ほどの民生委員さん、主任児童委員さんなど保育園にいろんな年代の方が大勢来て、関わりを持つことで、子どもたちは心が豊かになるのだということを実際に感じています。</p> <p>また、今日は子ども読書の日があって、茅野市は読書を大切にしているので、お母さんたちをお誘いして一緒に読書を楽しみました。あとは挨拶運動を地域の方が活発にされていて、子どもたちに挨拶して下さったり、保護者会</p>

	<p>作業では、お父さんたちが汗水流して作業してくださったり、そういう姿を子ども達に見せられるだけでも、心が豊かに育っていくというところで、少しずつ、いろんなところで、子どもたちを支えられたらと思っています。</p> <p>子どもたちは、今一生懸命泣いていて、その中でその年齢の子どもなりに、どうしたら先生を独り占めできるか、どうしたらここで過ごせるのかを考えていて、日々一生懸命生きて学んでいるので、少しでも子どもたちが、安心して過ごせるようにと思っています。</p> <p>このどんぐりプランは茅野市の保育目標の基本になるので、大切に考えながら審議していきたいと思っています。</p>
委員	<p>ご発言残りの方いらっしゃいますか。事務局の方いかがでしょう。</p>
こども課長	<p>ただいま、それぞれの立場の方からいろいろなご意見をいただきました。まさしくこども部それぞれの部署が、そういった意見を受けとめながらこれからの時代に合った施策を考えていかなければいけないと感じました。</p> <p>こども部ではどんぐりプランの見直しが今年度の重点目標事業になってきますので、ぜひ皆様のお力をお借りできればと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>そうですね見直しについて。たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例の中で第21条がすごいことを宣言していて良いと思っています。この第2項、市は計画の策定にあたっては、企画立案段階から市民の参画により策定するものとするということで、考えるところから意見を入れようということが書かれていて、住民自治基本条例に匹敵するような書き込みが入って素晴らしい。3は速やかに公表しとあり、またこの4が素晴らしいと思うのですが、市は計画を効果的に推進するためにその評価を行い、必要があると認めるときは見直しをするものとする。つまり、今回、私たちは見直しをしますが、見直しをしたらもうそれであと4年間という話ではなく、必要に応じて随時見直していくことを謳っていますので、この会議が、市の意思決定として、市民の声をあげるとい形になりますので、ぜひ皆さんにはよろしくお願いしたいなと思います。</p> <p>それでは事務局から他、連絡事項その他ありますか。</p>
事務局	<p>事務局からです。どんぐりプランの見直しということで、これから会議を開催させていただくのですが、委員の皆様にはどんぐりプランの冊子を毎回ご持参いただきたいと思っていますのでよろしくお願いします。</p>
副会長	<p>8 閉会</p> <p>はい、ただいまをもちまして、令和5年度第1回茅野市こども・家庭応援会議を閉会しました。</p> <p>お疲れ様でした。</p>